

# 優秀演題抄録

## 7 努力的な座位姿勢が改善したことで活動性の向上に繋がった症例

【演 者】長谷川 みなみ 【所 属】茨城西南医療センター病院

【共同演者】鷺田 彩絵（作業療法士）、根本 浩則（作業療法士）

【キーワード】活動、座位、QOL

### 【はじめに】

多発外傷を呈し、座位の耐久性が低下した症例を担当した。アクティビティを活用した介入を行った。その結果、座位の安定性、病棟での活動性の向上がみられたため、以下に報告する。本人から発表に関して同意を得ている。

### 【症例紹介】

10代女性、交通事故により骨盤骨折、左大腿骨骨幹部骨折、右下肢デグロービング損傷を呈した。骨盤は約1ヶ月の創外固定を行い、右臀部から下腿にかけて植皮術を行った。歩行はごく軽介助だが病棟では床上で過ごしている。精神的な落ち込みがあり実際にはできることも行わないことが多い。主訴は座っていると疲れる、何か作りたい。

### 【評価（第83病日目）】

右股関節屈曲60°、膝関節屈曲40°。座位は左上肢でベッドを押し付けている。右股関節内旋、体幹右側屈し、肩甲骨は拳上している。前方への重心移動は不十分であり、右足底は床に接地していない。机上でミシン操作を行うと、体幹の右側屈と左肩甲骨の拳上がさらに強まり15分程度で疲労の訴えが聞かれる。

### 【問題点】

右股関節、膝関節の屈曲制限と右下肢の軟部組織の損傷により、右股関節の内旋が強まり右臀部に荷重できず支持面として働いていない。そのため体幹や左上肢の代償が出現し、臀部内での重心移動ができず作業中の姿勢が努力的で非効率的となり疲労する。それにより、離床意欲が低下し自発的な活動の機会が減少している。

### 【アプローチ】

①ボールが潰れる感覚を捉えながら左肩甲骨を下制方向に誘導する。②輪入れや起立練習で代償が起らない状態で股関節、膝関節の屈曲を促す。③ミシン操作時に、胸郭や骨盤を介助して右側、前方への重心移動を誘導する。

### 【結果（第100病日目）】

右股関節屈曲80°、膝関節屈曲90°。座位は左上肢の押し付けが軽減した。右股関節の内旋、体幹の右側屈、左肩甲骨拳上も軽減し、左右対称に近づいた。両足底は床に接地し前方への重心移動が可能となった。作業中の姿勢は代償や疲労少なく20分程度の作業が可能となった。病棟では、座位での食事や勉強など自分で行える活動の幅も広がった。精神的な落ち込みはあるが、できることを探したり挑戦することが増えた。

### 【考察】

ボールの弾力により手掌で受ける反力が強調され、それに合わせた左上肢の反応が得られたことにより肩甲骨と体幹の運動パターンが変化し、左右対称の活動で右下肢の関節可動域の改善が得られた。さらに、重心移動可能な範囲が拡大したことで作業中の座位姿勢の安定が得られた。その結果、疲労感は軽減し、離床に対する意欲が向上したと考える。また、活動の中で成功体験を積み上げていくことや、製作活動の作業効率の向上を図ることで達成感が得られた。以上のことから、心身ともに自己と向き合う場面が増え、活動性が向上した。